

# 文字だけのコミュニケーションについて考える

## なりきりチャット体験の実践より

神奈川県立川崎高等学校 鎌田 高德

来年度から教科「情報」では、情報社会に参加する態度を養う「社会と情報」が設定される。生徒たちにとっての情報社会に参加する態度を考えた時、スマートフォンや情報端末などを使いこなし、一定のアプリケーションを活用する経験や知識はあるものの、自分たちの身を守る手立てや知識が不足している。そこで本校で行われている、仮想的な不特定多数の人との文字だけのコミュニケーションの実践「なりきりチャット」を紹介し、生徒たちが体験的に感じた文字だけのコミュニケーションについて報告する。

### 1. はじめに

生徒たちはスマートフォンや情報端末を活用し、メールや SNS でのつぶやきなど、文字を活用したコミュニケーションを行っている。しかし、この文字を活用したコミュニケーションは、メッセージの送り手と受け手の間の解釈の違いを生みやすい。

アメリカの心理学者アルバート・メラビアンが提唱した「メラビアンの法則」によれば、メッセージの送り手が、どちらとも取れるメッセージを送った場合、人の行動が他人にどのような影響を与えるかを分析した結果、見た目などの視覚情報が 55%、口調や話の早さなどの聴覚情報が 38%、話の内容などの言語情報が 7%となったとしている。単純に、文字だけのコミュニケーションを考えれば、言語情報のみでは解釈の違いを招いてしまう。さらに、コミュニケーションを取っている相手が見えないということは、簡単に他人になりすますことが可能である。

そこで本校では富山県立大門高校の実践や兵庫県立尼崎東高校の実践を参考に行った「なりきりチャット体験」を通し、生徒たちが体験的に文字だけのコミュニケーションについて考えた実践の報告を行う。

### 2. 実践の概要

神奈川県立川崎高等学校は、神奈川県川崎市の南部にある、単位制普通科高校の中でも特にフレキシブルスクールと呼ばれている珍しい制度を持つ学校である。最大の特徴は、1日12時間の時間割の中から自分の時間割を作り、全日制と定時制が一体となっているため、定時制の生徒が午前の部の授業を受けることができることである。

情報科の授業は、1年時に履修することが標準となっており、全日制の情報Aが10クラス、情報Bが1クラス、定時制の情報Aが4クラス展開されている。

### 2.1 本校の指導計画

本校では前期、後期の2学期制を取っており、表1に本校における情報Aの前期指導計画を示す。なお、本校では1コマ辺り90分の授業を展開して行っている。

情報A、情報Bともに4回目の授業までは同じ内容を取り扱っている。早い段階において、情報モラルを取りいれているのは、年間を通して授業の合間に情報モラルに関する指導を適宜、適切なタイミングで指導するためである。

表1 前期指導計画

時	指導計画
1	オリエンテーション ワークショップおもしろ村
2	基本的なファイル操作
3	情報モラル（なりきりチャット体験）
4	情報モラル（著作権）
5	大名刺交換会 オリジナルロゴ作成
6	大名刺交換会 Wordの基本操作
7	大名刺交換会 色彩から伝わる情報
8	大名刺交換会 名刺の交換と相互評価
9	振り返り、伝言ゲーム

### 2.2 情報モラル（なりきりチャット体験）

なりきりチャット体験とは、生徒たちに図1のような役割カードを配布し、割り当てられた架空の人物になりきる授業である。

名前：つよし
性別：男性
年齢：28歳
職業：教師
チャットルームの部屋番号：1

図1 なりきりチャット体験役割カード

本校では、この役割カードの設定以外に、よりなりきりやすくさせるため、生徒独自で考えたなりきるキャラクターの趣味などのアレンジ設定を3つ追加させた。

生徒にこのなりきりチャット体験役割カードをランダムに配布し、1つのチャットルームあたり5名のメンバーで構成されたグループを作った。チャット体験を行った後で、ネタ明かしを行い、一人ずつ感想を述べてもらう。最後にBBSにて今回のチャットを通して感じたことをまとめた。

### 2.3 使用したツール

今回の実践は情報教室の更新後ということもあり、校内サーバのIISの設定が充分に行われていなかった。そのためイントラ内においてチャットやBBSを動かすことができない問題点を抱えていた。

そのため、LancasterとND掲示板という校内LAN内において使用可能なチャットとBBSのソフトウェアを使用した。これらのソフトウェアは、共有フォルダ内において簡易な設定を行うだけで使用することができる。

11:24 (アドリアーノ) 僕はスポーツ選手でサッカーの人気者です。国籍はイタリアです。  
11:24 (アドリアーノ) あなたは誰ですか  
11:24 [あけみ] うちが看護師やってるよ☆  
11:24 [つよし] 私は教師をしています  
11:25 [あかり] 私は、大学生で今年卒業する予定です。  
11:25 [つよし] たけるさん(何をされている方なのですか？)  
11:26 (アドリアーノ) 年齢は36歳とありますが実は55歳でまだ現役でフォワードを  
11:26 [あけみ] まじ笑  
11:26 [つよし] 20歳もサーバを読んでいるなんてすごいですね(笑)

図2 Lancasterを使ったチャットの内容

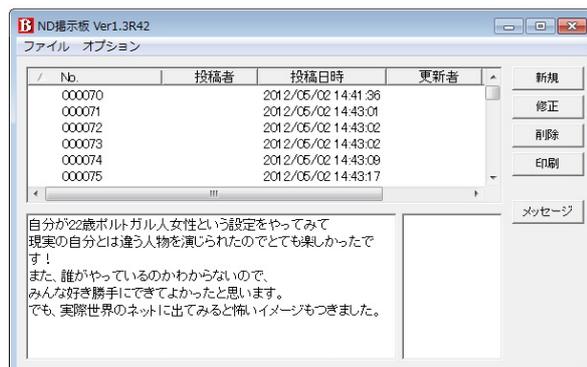


図3 ND掲示板による振り返りの内容

## 3. 事例報告

情報Aと情報Bのそれぞれ1クラスの実践内容をもとに報告する。

### 3.1 なりきりチャットの生徒たちの振り返り

生徒たちのワークシートの振り返りの内容より、概ね楽しくチャットを行うことができたという記述が多くみられた。楽しくできた理由については、

「教室内にいる人と分かっているから」という内容が多く見受けられた。

また、「ネットはこうして楽しく使えばいいけど、ルールを守らないと怖い」、「文字というのは使い次第で誤解を招いてしまう」という気づきも見受けられた。

### 3.2 BBSの生徒たちの振り返り

最後のまとめとして、生徒たちに実名で今回のチャットの振り返りを書き込ませた。これまでの「なりきり」から「実名」に変わることによって書き込む時に、「自分の発言が匿名で無くなる」という意見が上がっていた。また、「名前がない方が色々書ける」といった意見もあり、匿名性があるからこそ、チャットが盛り上がったとしていた。

### 3.3 文字だけのコミュニケーションの特徴

今回のなりきりチャットを通して、外国人になりきった生徒の中には、カタカナで文字を書き込み、或いは日本語が苦手であるような内容を書き込んだ生徒がいた。その一方で中学生になりきった生徒は、周りが年上であることを意識し、敬語で書き込むことを強く意識した傾向が見受けられた。

#### 引用・参考サイト

- (1) ICT・Education フォーラム「情報教育」No.47 H23年  
<http://www.vector.co.jp/soft/win95/net/se252249.html>
- (2) Lancaster  
<http://www.vector.co.jp/soft/win95/net/se240630.html>
- (3) BBS (ND 掲示板)